

「第2期宇治市自殺対策計画」(骨子案)に係るアンケート結果報告

実施期間 令和6年9月11日(水)～9月27日(金)
 対象 委員23名中、第1回地域福祉推進委員会の欠席者5名を除く18名

結果

回答	9
----	---

 (回答率50%) 回答方法

WEBフォーム	5
FAX	3
持参	1

基本目標「本市の自殺死亡率を令和11年までに令和元年と比較して30%以上減少させることとし、将来的には「自殺者ゼロ」をめざします。」とする案について

数値目標を設定しない	例えば自殺を虐待で命を落とすとした場合と私は同じだと思うのです 国が京都府がどう言おうと目標はあくまでもゼロだと私は思います 宇治市の心意気を表しましょう
	目標は「自殺者ゼロ」を掲げたほうが良いと思うので。
	そもそも「自殺死亡率」の目標数値を設定すること自体、ナンセンスだと考える。私は宇治市においては「自死」「自殺」をなくすためにあらゆる努力を継続していく必要があると考えている。そのためには、宇治市地域福祉推進委員会を精力的に開催すべきと思う。
	自殺の要因・誘因は複合的であり、交通事故死予防のように対策は単純ではない。30%減の実現論拠が不明確であり、かつ実現可能性は高いとはいえない。「人の傷みを受けとめられる地域社会づくり」に努め、自殺に追い込まれる人が、ひとりでも少なくなるように、市民活動と協力して取り組みます。」くらいの目標がよいのでは。
数値目標を設定する	ゼロは理想的な目標になると思いますが目指したいですね
	もちろん賛成ですが、かなりハードルの高い最終目標になると思いますので、中間目標＝KPI目標を設定して、一歩ずつ前に進めてもらえたらと思います。
	自殺防止対策を実効性のあるものとして進めていく上で、30%の削減を目標として掲げること、30%という数値目標も妥当だと思います。 自殺防止のための諸制度や取り組みがそこをめざして取り組む目標にもなるので賛成します。
難ゼし口いは	ただ、「将来的にはゼロをめざす」というのは心意気としては理解しますが、自殺の要因や背景は今以上に複雑・多様化が想定される中で、非現実的な目標は、計画自体の信憑性を損ねないか心配です。反対ではありません。
	「ゼロを目指す」と唱って、現実的に「0」になるのは難しいと思う。 しかし、そうならない為に、寄り添える場所や悩みが相談できる窓口の環境を整えることは必要だと思う。また、「生きづらさ」を感じさせない社会・地域づくりも必要だと思う。(難しいですが…)

その他意見等

1.本市は30代から50代男性の自殺者が多い。働き盛りで、仕事による悩み(人間関係、仕事に追われる日々、精神衛生的悩み、経済的悩み、借金など)が多いと思う。70代以上は健康や生活の悩みが多いと思う。年齢別に、わかりやすい形で相談窓口がどこにあるかを公共施設だけでなく、コンビニや地域のスーパーに貼り紙をはらせてもらうなどの工夫が必要。

2.基本施策4について、支援体制を整えて、(1)から(9)までの件数と、個人情報が出ない程度の内容の記録、相談、助言、前向きに生活できる姿勢がどの程度、見られたかを評価する。月に一度程度その内容を係の者同士、話し合い、今後の支援方法を決める。
と、評価し、うまくいかない時は再検討する必要があると思う。

これまでも何回も意見として出ていたと思いますが「自殺対策計画」というネーミングに少し引っかかりを覚えます。

基本目標に「自殺者ゼロ」を掲げ、結果としては令和元年と比較して令和11年までに、少なくとも30%以上の減少となっていることを必須とする。
のようにゼロを主にした文面のほうがよい。

「施策の体系」「基本施策1～5」まで施策メニューとしては「いうことがない」ほどよくできていると思う。しかし、問題は「絵に描いたモチ」にならないよう具体的な施策の裏付けと実際の実例のカンファレンスである。特に地域での「孤立化」をいかに防ぐのか、「ゲートキーパー」や「民生委員」「学区福祉委員」だけでなく「市民一人ひとり」の「意識改革」がカギを握っている。

宇治市として、施策1、2、3、4に関する案は、賛成です。相談や支援をしていく姿勢は強く感じられます。